

印旛普及だより

第 41 号

〒285-0026 佐倉市鎭木仲田町8-1 TEL : 043-483-1128 FAX : 043-485-9502
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-inba/inba/mokuji/index.html>
発行：千葉県印旛農業事務所改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会

台風被害からの復興 災害に強い産地を目指して

令和元年の台風15号及び19号は印旛地域の農業にも大きな被害をもたらし、特にパイプハウスが多い八街市や富里市では、これらの施設に甚大な被害が発生しました。

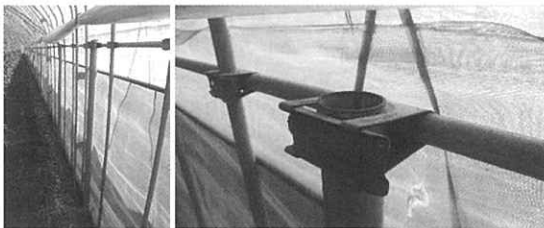
2市のJA組合員を対象に行った施設の被害調査でも、回答のあった91haのうち、全壊38ha、半壊23haという、これまでにない大規模な被害であったことが明らかとなりました。

しかし、被害後の聞き取り調査や現場検証を行う中では、損傷が少ない施設も少なからず見られ、そうした事例では、直径の太いパイプやダブルアーチによる補強を行っている場合が多いことが判りました。



被害を受けたパイプハウス

補強の有無や方法により損傷程度に差があることから、県では「千葉県農業用ハウス災害被害防止マニュアル」や、現場での補強事例の情報提供を行うことで、再建や修繕を行う際に有効な補強方法を生産者に周知し、災害に強い園芸施設の導入を推進しました。



足場パイプによるサイドの補強事例

また、生産者がこの災害から立ち直り、経営再建を果たすため、国・県・市町一体となって被災農業者支援事業を推進しており、多くの生産者がこの事業を活用して園芸施設を再建し、着々と復旧が進んでいます。

今後も勢力の強い台風の上陸が想定されることから、単なる原状復帰だけではなく、効果的な補強や防風ネットの設置等プラスアルファな復興で、より災害に強い産地づくりを進めていく必要があります。

ジャンボタニシの 防除対策について

○ジャンボタニシの被害が増えています

令和2年は管内のあちこちで、ジャンボタニシの被害が見受けられました。



ジャンボタニシの食害

ジャンボタニシは、水田の土壌内や、水路等で越冬します。暖冬では越冬する貝が多くなり、被害が拡大しやすくなります。ジャンボタニシの多発は、減収と経費の増大につながります。

例えば、田植え時期に2センチ程の越冬稚貝が1メートル四

方に2〜3匹いると、苗が食害され、約5%の減収となります。また、苗の食害を抑えるために殺貝剤を用いた場合の費用負担は、10aあたり三千〜六千円かかります。

○どうやって防除すればいいの？

ジャンボタニシの防除で重要なことは、殺貝剤の散布だけでなく、地域で総合的な防除を行うことです。

1	侵入防止対策	田植え(入水時)	・取水口にネット(種もみ袋)を設置 ・波板の設置
2	食害防止対策	田植え後あるいは田植え同時(4月下旬〜5月下旬)	・均質な圃場では、移植後2〜3週間の浅水管理(水深4cm以下) ・水田での薬剤散布(スクミンバイト3など)
3	越冬防止対策	12月〜1月	・冬期の耕転
4	水路での貝密度低減対策	12月〜1月	・水路の泥上げ

ジャンボタニシの4つの総合的防除

とくに、田植え準備の時期に重要なのは「圃場にジャンボタニシを入れない」ことです。

水田に水を入れる前には、取水口に種もみ袋を設置して、水路からの侵入を防ぎます。

また、排水路の水を圃場に入れるときは、ポンプの出口に種もみ袋を付け、ジャンボタニシを圃場に侵入させないなどの工夫が必要です。



取水口に種もみ袋
貝を入れない工夫

○食害を抑える浅水管理

ジャンボタニシの食害は、移植後2〜3週間の苗が柔らかい時期に顕著となります。印旛地域ではその時期に薬剤散布を行うことが多いのですが、新たな食害防止技術として一定の効果が見られるのが、「浅水管理」です。

「浅水管理」は圃場を均平にして田植えを行い、移植後2〜3週間の間、水深4センチ以下で水管理を行う技術で、それによって食害の主体となる成貝の動きが抑制され、食害が抑えられます。

水管理が大変なようですが、簡易で安価な水位センサーなどを使うことによって、スマホで簡単に離れた圃場の水管理ができるようになりました。



浅水管理を可能とする
水位センサー

ジャンボタニシを見つけたら、「地域ぐるみで対策を行う」ことが重要です。農業事務所では、現場に合わせた防除の提案をしています。ぜひお問い合わせください。

白紋羽病対策で 果樹産地を守れ!!

近年、印旛地域のニホンナシ園地において、白紋羽病が多発しています。白紋羽病は多くの樹木の根に発病する病害です。感染した樹は樹勢がしだいに低下し、枯死に至ります。

産地では白紋羽病により若木が枯死し、改植がうまく進まない園が多く見られます。

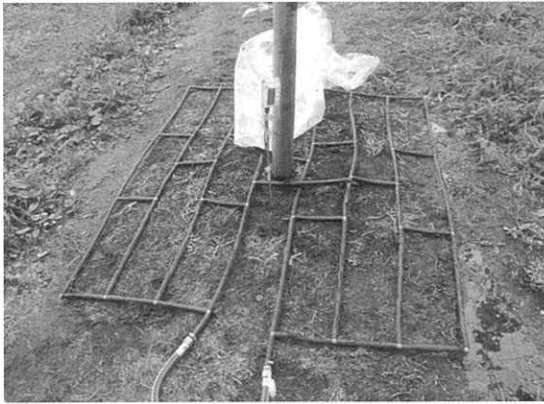
対策として、農薬のかん注による防除が一般的に行われていますが、菌の動きを一時的に止める作用しかありません。

最近、白紋羽病菌の対策として、農研機構により「白紋羽病の温水治療技術」が開発されました。

この技術は白紋羽病が熱に弱いことを利用して温水を流し殺菌する方法です。50度の温水を点滴することにより、地温を35〜45度に維持し、樹体に影響を

与えずに病原菌を殺菌することができます。従来の方法と比べ大きな労力を必要とせず、環境への負担が小さいという特徴があります。

現在、農業事務所では千葉県農林総合研究センター生物工学研究室と連携し、温水治療の試験を現地で行っています。温水治療を行った樹の追跡調査や、温水治療後に拮抗菌を施用して治療効果を増やすことができるかの試験を行い、課題解決に取り組んでいます。



白紋羽病温水治療の様子

ハウスを使わない水稲育苗技術 〜露地プール育苗〜

令和元年の台風15号により、印旛地域管内の多くの水稲育苗ハウスが倒壊しました。ハウスの復旧が令和2年の育苗に間に合わなかった農家の一部では、その対策として露地プール育苗に取り組みました。

露地プール育苗は、ビニールハウスを利用せずに水稲を育苗する方法で、かん水作業も省力化できる技術です。

手順としては、育苗器等で出芽した苗を露地に並べ、緑化期まで被覆資材で管理し、それ以降は農業用ポリシート等で水をためたプールで管理します。

露地で育苗するため、気温や風の影響を大きく受けます。そのため、露地プール育苗に取り組み農家は、霜の心配がなくなつてから苗を露地に並べており、風に弱い時期（緑化期）ま

ではシートを被せて管理します。露地プール育苗は育苗器での出芽を前提とした技術なので、育苗器を持たない農家では、出芽に失敗しないよう、ハウス内で育苗箱を積み重ねて出芽し、その後露地に並べたり、播種時期を4月下旬以降まで遅らせて出芽を安定させる等、保温の工夫をして取り組んでいます。



露地プール育苗の様子

新しい農業士が 認証されました

令和2年度は、千葉県農業士1名が新たに認証されました。

稲坂 敏幸 氏（四街道市）

果樹専作

梨の専作経営を行っており、直売所や産直で消費者ニーズを意識した販売を行っています。

また、計画的に改植に取り組んでおり、今後の経営向上が見込まれています。

四街道市農業のPRを行うなど地域農業の推進に努めています。

いんばGar-net (印旛女性農業者の会)の紹介

女性農業者は担い手として、女性ならではの感性や能力を發揮した主体的な農業経営や地域社会への参画による活躍が期待されています。



いんばGar-net視察研修の様子

印旛地域では「いんばGar-net（印旛女性農業者の会）」（会員数39名）が活動しています。

活動目標は、「印旛地域の女性農業者が広く交流することで、個々の経営向上や女性が活動しやすい地域づくりに取り組み、『元気で逞しい印旛農業』を実践する」としています。

講師を招いての学習会や視察研修等活動しています。

興味のある方は改良普及課まで、ぜひお問い合わせください。

若手農業者の皆さんへ 印旛農業経営体育成セミナーに参加しませんか！

農業事務所では、就農して間もない若手農業者を対象として、農業経営体育成セミナーを開催しています。

当セミナーは農業経営に必要な知識、技術、課題解決方法、経営計画の策定方法などを習得するとともに、セミナーを通じての仲間作りも目的としています。

3年間の研修カリキュラムで研修終了時には認定農業者の経営改善計画を自力で策定できるように力を身につけることが目標です。

本年度は基本研修（1年目）14名、専門研修（2年目）10名、総合研修（3年目）13名の計37名が参加しています。

1年目は、生産技術に関する基礎知識の習得と、地域農業を知ることの主な目的として研修を行います。2年目は、研修生



3研修合同での視察研修の様子

が自ら設定した課題を解決するプロジェクト学習を中心とした実践的な研修を行います。3年目は、経営者の視点で営農計画を作成し、経営の将来をデザインする力を養うための研修を行います。

いずれの研修でも、研修生同士が個々の経営を学び合う相互訪問を取り入れ、意見交換を積極的に進める内容になっています。次年度の新基本研修生は4月頃から募集する予定です。